

# Mランドニュース Vol.111

## 丹波ささ山校 平成28年6月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹  
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 《今月の言葉》

どんなに辛く、苦しいときでも  
真剣に取り組むことで、  
楽しく質のよいものになるということ  
を学びました。

第214回「岐阜掃除に学ぶ会」に参加された  
大垣東高校 野球部 中川 拓武様  
フレッシュタニサケ 3月号文中より

### 百年企業をめざして

五月二十七日、Mランド  
丹波ささ山校は創立五十四  
周年を迎え、毎年この日に  
記念式典を行い、私たちが  
進むべき方向を確かめる日  
としてきました。

今年も式典前に、日々感  
謝の気持ち忘れずに、目  
標に向かって全職員が決意  
を共有するため、四十分か  
けて館内のタイル磨きをし  
ました。



いつもより時間をかけて

たかがタイル磨きと思いま  
すが、二十六年間使い込ま  
れた社屋のタイルですから、  
根気強く磨かなければなり  
ません。磨きあげたタイルは  
鏡のように輝き、達成感も  
一際です。

また、「切磋琢磨」とはま  
さにこのことで、「どの人より

もきれいに！」という意識も  
しぜん生まれ、お互いに磨  
き方を聞いたり、教えたり  
と相乗効果もみられます。  
このように皆の力で一枚  
一枚、Mランドのタイルが  
日々輝いているのです。  
式典では、小河二郎会長  
より基調講演をしていただ  
きました。



小河会長のことばを胸に

冒頭、「健康面から座るこ  
とが一番いけない。教習以外  
なら、昼食時でも立って食事  
するくらいでよい」と教えて  
いただきました。

またMランドの目的は、ゲ  
ストに自動車の運転だけで  
なく、「女性ならそこに花が  
咲くように、男性なら世の  
中、はじめをつけなきやいけ  
ないよと思わせるような、最  
高のあいさつをする。こんな  
ことがこれから大事になって

くる」といわれました。  
最後に、「迅速に動く」。い  
いと思ったことは、明日すれ  
ばよいというのではなくすぐ  
にやる。それも一人ではなく  
協力してやる。「時代は刻々  
と変化しており、私たちが  
先頭になって新しい世の中を  
創っていく」としめくくら  
れました。



無事故を願ひ、社員一丸で

つづいて永井興喜所長よ  
り、「事故ゼロを目指して」に  
ついてお話がありました。

一つ目は「心」。武道に心・  
技・体が必要なように、運転  
にも心・技・学が必要であり、  
いずれも心の部分がどうで  
あるかが問われます。相手  
の立場になって運転できるド  
ライバーこそ大切で、「心」と  
いう形のないものを教えるの  
は難しいことではあるが、一  
番身近で伝えられるのは私

たちMランドであり、一人ひ  
とりが誠意をもって取り組  
んでいかなければならない。  
二つ目は「運転は自分の性  
格の中にある」。人が自動車  
を動かしている以上、その動  
きは人の性格で大きく左右  
される。「運転適性結果」を  
十分に理解することにより、  
命に関わる自動車を運転す  
る自分を、コントロールする  
大切さを伝える。

三つ目は「時間に余裕を  
持つ習慣」。運転だけでなく、  
日常生活での余裕の無さは  
自動車の運転にも影響し、  
何らかのミスを引き起こし  
てしまうものであり、折に  
触れ時間に余裕のある行動  
の大切さを伝えていく。

四つ目は「リスクマネージ  
メント」。いわゆる被害を最  
小限度に抑えることで、事  
故になるまでの過程を想定  
し、それを未然に防止する  
力を身に付けていただく。  
ルールや運転だけではな  
く、これらをGESTOに伝えて  
いくのがインストラクターの  
仕事であるといわれました。  
このあと、後日行なわれる  
「自転車教室」、「バイクスク  
ール」について、目的を共有  
しました。



バイクスクール担当、南勝リーダー



自転車教室担当、永見リーダー

一方、バイクスクール担当  
の南勝宏幸リーダーからは  
「ワンハート・ワンワールド」。  
バイクと自然が一体となり、  
すべてに優しいライダーを目  
標にすると説明がありまし  
た。

自転車教室担当の永見倫  
幸リーダーから、「楽しくの  
ろろー」のテーマで、ルール・  
マナーはもちろん、自分の命  
は自分で守る「防衛運転法」  
を身に付けるきっかけとなる  
よう、子供も親も笑顔の教  
室にしていく。

サイクルフェスタ

毎年、同時開催していた自転車教室とバイクスクールでしたが、それぞれコースやスタッフを有効活用し、参加者に「来てよかった!」と思っ

ていただけのイベントにするために、今年は二日間に分けて開催しました。

初日の五月二十八日は、市内小学生三十名に参加していたが、自転車教室を開催しました。



バランスを取るの意外と難しいです

まずは、少し難易度を上げた課題をいくつか走行し、普段何気なく運転している

自転車がいかにバランスを取るの難しい乗り物であることを再認識します。

その上で忘れてならないのは出会い頭での事故。路地から出る際の確認もしっかり練習しました。



飛び出し危険、よく見て!

つづいて指導員迫真の演技で、巻き込み事故を目の前で再現しました。



わぁ!危ない。「マネしないでね」

自動車の運転席から見にくい死角があることを自転車側も知るとともに、自

動車を運転するお父さん、お母さんにも、早めの合図と巻き込み事故防止の運転行動をお願いしました。

約一時間の教室で、「自ら命を守る」という意識のもと、親子で楽しくも真剣に取り組んでいただきました。

終了時には、自転車運転免許証の交付をしました。



すごい!ゴールド免許だ!!

参加二回目はゴールド免許証です。更なる安全運転をMランドは願っています。



家族で安全運転。ご苦労さまでした

自転車教室担当 永見倫幸

二日目の二十九日は、自動二輪車を対象としたバイクスクールで、テーマは「リスクマネージメント」です。人は行動することによってリスクが生じます。特にバイクは四輪にはない風を感じる爽快感と、命に関わる大きなリスクがあります。



今日の目的を説明

そこで事前に適性検査を行い、ご自身の性格についても結果にもとづいた説明をし、より深くご理解していただきました。



おっと、無理は禁物

設置した課題に対して、十人十色のライダーが様々なバイクで挑戦します。当然クリアできる人、できない人がありますが、目的は無理をしないことで、あきらめるのも立派な判断であることを知っていただきました。



切社のコースを気持ちよく

朝の会社周辺のゴミ拾い。少しずつ顔を覚えてもらっているのか「おはようございませー!」と、道路の向こうからでも元気にあいさつをしてくれる学生さんも増えました。あいさつは人より先に。下ばかり見ているといけません。ゴミ拾いとあいさつで、気持ちのいい朝をいただけています。(徹)

編集後記

『掃除に学ぶ会』のご案内

私たちと一緒にトイレを掃除しましょう。

6/12 (日) 八上小学校 西トイレ (AM8:00~9:00)

6/26 (日) 篠山中学校 運動場トイレ (AM8:00~9:00)

※参加していただける方は井本までご連絡ください。

最後は、めったに走れない教習コースを、あくまでも自分に見合った安全速度を意識して走行しました。毎回参加してくださる方から「来年も来ますよ!」と、嬉しいお言葉をいただきました。バイクスクール担当 南勝宏幸